

なぜ中高連携が必要か

連携を図ることでも、多様化する生徒像を的確に把握する

生徒の進路目的を明確にさせる

これまで中学校と高校は、入試説明会や学校説明会などの場を除いて、ほとんど接触する機会を持ってこなかった。だが近年、中高連携の在り方がいかに重要視されるようになってきている。高校の教師が中学校に出向いて出張授業を行ったり、公立高校の普通科の中にも、中学生のために学校を開放して1日体験入学を実施する所がある。では、なぜ今、中高連携なのか。これについて文教大教育学部名誉教授の仙崎武先生は「今になって動き出すのは、遅過ぎたくらいだ」と言う。



文教大教育学部名誉教授
仙崎武
大正15年生まれ。都立高校教師を経て、文教大教授に。専門は学校教育学、日本進路指導学会会長を務める。

「中学校と高校の連携強化が大切になつていいる一番の理由は、高校進学率の上昇です。もうずいぶん前から、生徒が中学校を卒業してそのまま高校に進むのは当たり前になっていきます。つまり生徒の意識では、中学校と高校はつながっているんです。それなのに、これまで中学校と高校の間の連携が全くできていなかったというのは、むしろそちらの方が不自然な状態だったと言えるのではないのでしょうか」

仙崎先生は、高校進学後に学校不適応になる生徒が増えていることも、中高連携が重要視されるようになった理由の一つだと言う。何のために高校に行くのか、将来何をしたいのか、目的を持って毎日を過ごす生徒が目立つようになってきている。そんな生徒をどう指導するかが、高校の進路指導の重要なテーマとなりつつある。

「入学後の指導だけでなく、中学校と連携を図って、中学校の教師や生徒

に高校がどんな所か、中学校時代にとんな準備をして欲しいか、ということ伝えていく努力をすることが大切です。中学校と高校が協力して、6年間を見通した進路指導ができるようになれば理想的ですね。それが進路選択のミスマッチを減らすことになり、明確な目的意識を持つて高校に入学してくる生徒を増やすことになると思います」

中学校の教科指導も多様化している

中高連携の必要性は、教科指導においても高まっている。「最近、生徒の勉強意欲や学習態度が多様化した」と感じる高校の教師は少なくないようだが、その理由は単に生徒の気質が変化しただけではなく、中学校の教科指導の在り方が変わってきていることも理由の一つだと思われる。例えば近年では、中学校においても選択科目の枠組みが

拡大され、生徒が自分で好きな科目を選んで履修する機会が増加している。また、意見発表やディベートなどを取り入れた授業も目立つようになった。こういった試みは間違いなく生徒の多様化を推し進めていくことになる。だからこそ、今中学校でどんな学習指導が行われているのか、連携を図りながら把握することが重要になる。一方で高校側から中学校の教師に「生徒には中学生の間に、これだけの学力は身に付けさせておいて欲しい」といった要望を出すことも、接続をスムーズに実現するためには大切なことだろう。

中高連携は、学校種、設置者の違いを越えた交流であるだけに難しい面もある。個々の教師ができることもあれば、地域単位で動かないと実現が難しいものもあるだろう。だが、進路意識の面でも学習意識の面でも高校に入学して行く生徒の多様化が進んでいる今、たとえ少しずつでも中学校と歩み寄っていくことが不可欠になっている。

中高連携が必要な背景

- ・目的意識を持たず、高校に進学して行く生徒の増加
- ・次期新課程による生徒の学力の一層の多様化
- ・選択科目の導入など、中学校の多様化、個性化
- ・総合学科や国際科など、高校の多様化、個性化

現行課程から本来高校が期待する基礎学力を身に付けていない生徒が増えてきたと言われる。この傾向は次期新課程で一層強まると考えられている。また高校の教育課程の多様化に戸惑う中学校の教師も多い。中・高それぞれで何が行われているのか、理解し合うべきテーマは多い。